

「3D動画」の概要

- 福島大学の学生が考えた「2050年カーボンニュートラル(CN)を実現した福島県」の街並みを立体的に見ることができる動画
- 動画と静止画を組合せ、主要な変化箇所についてはテロップで説明



<3D動画の構成>

1. 現在の福島県の街並み【全体像】

防災力強化の観点から、2050年には、その土地の地形に合わせて用途を使い分けるまちづくりが必要



2-1. 海辺レジャーエリア

- ① 防潮堤
 - 防災+人々の憩いの場として活用
- ② エネルギーステーション
 - 再エネを集積して地域内に供給
- ③ 自然公園・防災池
 - 津波浸水時の緩衝地帯として活用



2-2. 生活&ショッピング&多拠点居住エリア

- ① 集合住宅
 - 太陽光発電、木造建築、熱を反射する白色
- ② 農地体験ができる公園
 - 作物の地産地消、洪水時は防災池になる
- ③ ショッピングモール
 - 再エネ活用、非常時は避難所になる
- ④ 宿泊・滞在施設・コワーキングスペース
 - 地域中外の人が一緒に活動できる拠点



2-3. 生活&学校エリア

- ① 集合住宅
 - 太陽光発電、木造建築、熱を反射する白色
- ② 学校施設
 - 保育園から高校まで、多拠点居住にも対応
- ③ 幹線道路
 - LRT走行、車道を歩道より低くし透水舗装



2-4. 生活エリア

- ① 戸建住宅
 - 太陽光発電、木造建築、高上げ、塀設置
- ② 河川堤防
 - 宅地への越流を防止



2-5. 農用地エリア

- ① 果樹園、畑地
 - 気候変化に適応した農作物を栽培
- ② 水田
 - 異常降雨時には「田んぼダム」となる



2-6. 山林レジャーエリア

- ① キャンプ場
 - 自然に親しむことのできる空間
- ② 湿地帯
 - 河川堤防を設けず越流を許容するエリア



3. 2050年の福島県の街並み【全体像】

再エネの地産地消が進み、防災力が強化され、人と自然が共生するまち

